日本鱗翅学会
中国支部会報

第６号

目次

支部長挨拶 1
「ヒョウモンモドキ保護の会」活動の紹介　新谷隆之・岩見潤治 2

第６回日本鱗翅学会中国支部例会 4
講演要旨
１　ギフチョウのはなし　渡辺一雄・平野和比古・亀山剛 4
２　三瓶山のウスイロヒョウモンモドキ：モニタリングの結果と保全対策の概要
星川和夫・中薗洋行 5
３　再びモンゴル　吉田嘉男 6

第６回日本鱗翅学会中国支部例会総会議事録 8

お知らせとお願い １０
１　支部助成金 １０
２　電子メールアドレスを教えてください １０
３　第７回支部例会のお知らせ（第１報） １０
４　日本鱗翅学会第52回大会のお知らせ １１
５　支部会報の原稿を募集しています １１
６　寄贈雑誌（支部保管）等リスト １１

2005年　中国支部役員連絡先 １２

支部会員名簿（2005年6月現在） １３

日本鱗翅学会中国支部規約 １７

編集後記 １８

<表紙写真説明>

ヒョウモンモドキ *Melitaea scotosia* 2001 年 6 月 23 日撮影

広島県御調郡久井町（神垣健司）

支部長挨拶

支部会員の皆様にはお元気でご活躍のことと拝察しております．2005 年度は久しく寒い冬を体感することができ，なかなか暖房器具が片づけられない日々が続きました．桜の開花も遅く中国地区は 4 月 10 日頃からが，桜の見頃となりました．待ち望んだギフチョウの発生もこの頃から始まり，あっとゆう間に終盤を迎えてしまった多少慌ただしい中でのシーズンインとなりました．第 1 化の蝶類は何れも少なく，昨年秋の台風の影響があったようです．これまで成果のほどは如何でしたでしょうか．

さて前置きが少し長くなってしまいましたが，本年度から一介のアマチュアである私に中国支部の支部長を仰せつかり，その運営に多少の戸惑いと不安も入り混じっておりますが，大役を引き受けるに際し一言ご挨拶をさせていただきます．

私が昆虫採集を趣味として本格的に始めたのは 16 歳を過ぎた時からで，早いもので頭髪も薄くなり白髪頭の還暦を迎えた自分がここにあります．昨今団塊の世代のことが，時として話題となることもありますが，その世代の中でも初頭に当るのが私たちではないかと思っております．子供の頃は戦後の貧しい生活環境の中で豊かではなく，物が不足していることもあり贅沢も出来ず野山を駈け回るのが多い，日常の生活習慣であったことが思い出されます．

社会人となり昭和の 40 年代に入り日本の高度成長時代を担う一員として，ガムシャラに頑張ってきたことが，いま思い出されます．経済の飛躍的な成長時代の中を過ごし多くのことを見，経験もしてきました．そして昭和の 60 年代に入りその繁栄の陰で失われた自然の重要性が叫ばれ初めたのが 1980 年代の後半となります．そして 1991 年に環境省から発行されてきた野生生物のレッドデータブックにも学会は関与し，その結果，研究や趣味として楽しんできたこの学会の元祖となる鱗翅類（蝶）などが先に規制のターゲットとなり，一般社会からも注目されるようになってまいりました．

21 世紀（2001 年）に入り，国や県更には市町村でも独自の保護（捕獲禁止）条例が施行されているのは周知の通りです．これら一連の政策は留まることを知らず，日本中に規制の輪が広がることは時間の問題と思われます．この中で 3 月末に本部から，先に環境省が行った自然公園法の見直しから来る，昆虫採集（捕獲）禁止措置が政策として近く施行されると緊急の知らせが入りました．皆様各様の思惑があるのは当然のことと思います．この条例についてどの様に受け取られたでしょうか．

個人の主観的な見方にもなるかと思いますが，採集することが前提である昆虫類が簡単に捕獲できなることは，受ける影響は大きすぎると感じております．特に後継者となる初心者にとって何処まで勉強できるのか，恐らくこれまで多く輩出してきたような研究者は望めなくなると心配しております．これは同所的近似種が数多く存在する昆虫類は採集することが前提で，目視や写真などでは同定は不可能です．また全てが許可制の中から制約が余りにも大きく，極限られた一部の方しか研究ができなくなることが予想されます（既に捕獲禁止対象種はその様になっている）．既にその及ぼす弊害が教育の場まで出ており，それらを列記するには多過ぎるようです．

県立や市や町の公園まで規制が及ぶのは現在の社会の風潮からは，これを機会に一気に加速するのではと懸念しております．極論付ければ日本から昆虫採集は出来ない日が来るのは，近い将来より現実となるとこれは一大事となります．これは何なのかここらで他人事ではなく真剣に考え議論され，個々に対応策などについて力を結集して真の保全を訴えてゆかなければならない時期に入っています．

50 年以上の歴史のある学会や同好会がいとも簡単に崩れ去るようなことはあってはならないことで，再度昆虫学の原点のようなものを模索し知恵を出し合って打開策を高じてゆきたいと考えております．そのため一度己自身の現在を振り返って見る必要があると思います．10 代から 80 代までの多岐に亘り活躍しておられる多くのかっての昆虫少年こそが，これらの諸問題を解決する原動力になると考えております．力を合わせればこれらの難局は是正されると信じております．そのために一個人の領域に留まらずややもすれば視野が狭くなっている自分をもう一度奮い立たせる必要があるでしょう．会員皆それぞれのスタンスがあるのは述べるまでもありませが，出発点は共通する昆虫少年であったこと忘れてはならないでしょう．昆虫学の基本はフィールドワークから始まるが私の持論です．身近な廻りからもう一度，モンシロチョウと戯れることが必要ではないでしょうか．

新任の支部長として何ができるか模索しながら，皆様の協力を得，互いの連携を取りながらこの支部が少しでも活力のある同好組織として，運営されればこれに勝るものはないと願っております．

中国支部支部長　後藤和夫

「ヒョウモンモドキ保護の会」活動の紹介

新谷隆之・岩見潤治

ヒョウモンモドキ保護の会は，2001年の発足以来，”絶滅危惧Ⅰ類”のヒョウモンモドキの保護活動を通じて，希少な動植物の生息地である湿地生態系そのものを保全する活動を行ってきました。湿地生態系は，私たち市民が将来にわたり豊かな恵みを享受すべき貴重な自然財産であるとの認識のもと，行政に頼らない地域住民主導型の地道な活動を展開しています。おもな活動は，次の４つからなります。

① ヒョウモンモドキの調査研究 → 生息分布，繁殖状況，遺伝的調査
② 生息地の管理 → 地権者との契約，生息に適した状態になるよう草刈り，ノアザミの補殖など
③ 観察会および勉強会 → 湿地の生き物の紹介，生物保全への理解，学校との協働
④ 広報活動 → パンフレット・ニュースレター発行，メディアの活用，行政提言

特に力を入れているのが生息地の管理イベントです。まず，生息分布調査から優先的に管理すべき生息地を抽出します。その生息地の地権者に協力を申し入れ，土地使用に関する契約書（覚書）を交わします。この契約書は会員である弁護士が作成したものであり，保護活動に法的根拠を与える重要なものです。地権者の同意が得られた場所では，イベントとして草刈りや樹木の除去などの作業を行います。作業の際は，ヒョウモンモドキだけでなく，湿地に生育する動植物にも配慮します。生息地の管理によって，個別の生息地の質を向上させる（局所個体群の維持）とともに，生息地間のネットワーク強化（個体群間ネットワークの強化）を図っていきます。

平成16年度は，「日本の里地里山30・保全活動コンテスト」（主催：読売新聞社，共催：環境省）に選ばれ，農村環境をフィールドとした環境教育運動である「田んぼの学校」をヒョウモンモドキの生息地で行い，啓発にも力を入れました。また，複数の小学校で総合学習の一環として，授業のお手伝いをしました。平成17年の秋には「田んぼの学校」の全国大会が世羅・賀茂台地を舞台として開催される予定です。

観察会や勉強会を通じてヒョウモンモドキの認識と保護活動への理解は深まりつつあります。自然保護は，遠い世界の事ではなく，自分たちの生活と密着した問題という認識が芽生えつつあるように思います。地域への浸透がすすみ，地域間のネットワークが構築されれば，おのずと生息地間のネットワークになるはずです。さらに，保護活動が地域の自慢や誇りとなれば，継続性も期待できるでしょう。

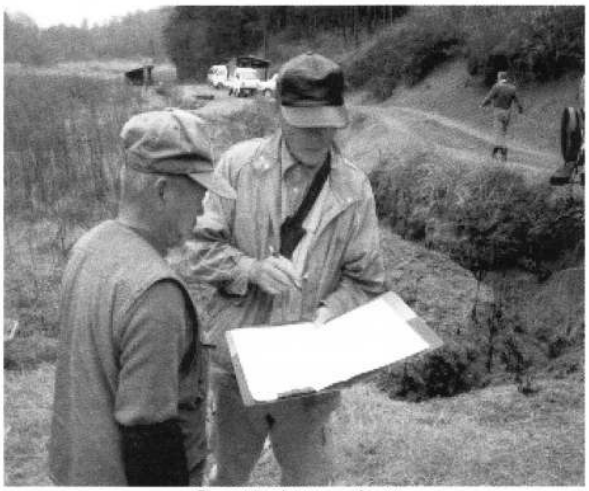
保護活動は，地道な努力によって進展してきましたが，さまざまな問題も抱えています。生息地管理や事務局仕事をこなす若い世代の確保，資金調達，採集者との軋轢，行政との関係などです。さいわい，保護の会は，研究者，弁護士，元教員，農業従事者，行政関係者，造園設計者，環境コンサルタントなど，様々な職歴を持った会員に恵まれています。会員同士が知恵を出し合ったり，他団体の活動に参加して外部の知恵を取り込むなどの工夫をしていこうと考えています。

おりしも2004年6月には，全国視野に立ってチョウ類の保全を図ることを目的とした「日本チョウ類保全ネットワーク」が設立されました。保全ネットワークには，保全活動を成功させる科学的情報の紹介や，他団体との連携・情報共有などの役割を期待しています。ヒョウモンモドキ保護の会もネットワークに参加しています。保護の会の活動が他団体の参考になれば，これほどの喜びはありません。

「ヒョウモンモドキ保護の会」http://www.geocities.jp/kinkamemushi/index/
「日本チョウ類保全ネットワーク」http://japan-inter.net/butterfly-conservation/

活動写真紹介

① 調査研究



②地権者との契約

② 生息地管理

④勉強会

⑤学校との協働

⑥パンフレットの作成

第６回日本鱗翅学会中国支部例会

《講演会参加者》（敬称略・アイウエオ順）

（中国支部会員）
伊藤國彦, 伊藤寿, 筆谷憲一, 金屋敷章裕, 鎌田博, 神垣健司, 後藤和夫, 白水房江, 田村昭夫, 中井衛, 難波通孝, 布目和子, 平野和比古, 本田計一, 松田裕一, 三島昭一, 三宅誠治, 吉田嘉男, 若槻匡志, 渡辺一雄

（中国支部以外の鱗翅学会会員）
大島良美, 木村春夫, 倉地正, 高橋真弓, 谷角素彦, 森中定治

（非会員）
小林一彦

（事務局）
中薗洋行, 林成多, 星川和夫, 淀江賢一郎, 米山沙希（非会員）

《講演要旨》

1　ギフチョウのはなし

渡辺一雄，平野和比古（広島大学大学院，生物圏科学研究科），亀山剛（（株）復建調査設計）

われわれのギフチョウ研究はすでにこの支部例会で何度か発表してきたが，その中身はムシ屋の活動と強く関係している．そこで，あらためて現段階で結果を整理して多くの会員の方々のご批判ご協力を得たい．

ギフチョウは飛翔速度だけから単純計算すれば１日数百 km の移動さえ可能である．しかし実際にはかなり山塊の構造に依存して飛翔し，あまり散逸していないと推測されている．今後，ギフチョウの個体群構造を把握し，それを作り出すメカニズムを解明し，その適応的意味を押さえることは，「自然個体群の種生物学的理解」を進展させるためにも，またこれに基づくギフチョウの種の保全を考えるためにも，はたまた効率的な採集活動とその自粛を考えるためにも欠かせない．これらの研究を進めるには，事実に基づく証拠を得，これを踏まえて順次次の問題を解決していくほかない．

（１）マーキング法による個体追跡から判ったこと

2002 年 4 月，広島市東部産地でピークに集まるギフチョウ成虫 29 個体（27 雄 2 雌）をマーキングし，各個体の飛跡を時間を追って地図上に記入し，飛翔トラックを解析し，雄個体の山頂集合性，日周変動, エイジング変動を記録した．ギフチョウは約 2 週間の寿命を持ち, 山頂執着性が実証された．また追飛を伴うスペースの占有行動，すなわちナワバリ性が示され，これは時間を追って段階的に進展することも判った．山頂部の広い範囲をオスの数個体が spacing-out によりカバーしあって未交尾メスの飛来を待つことにより, メタ-個体群内部に未交尾メスを残さない優れた行動戦略と解釈された．

この年，約 500m 離れたピーク間の往復移動が確認されたので，翌年と翌々年，雄 72 個体をマーキングし各々直線距離で約 500m 離れた 3 ピーク間でマーク個体の移動状況を追跡した．その結果，ピーク間移動が 14 個体，22 回確認された．うち同日内の移動も 9 個体，13 回存在した．すなわち，ギフチョウのオスはピークを含む尾根筋に執着した整合性の高い周回性の飛翔ルートを持つ．この地形に依存した回帰性の山頂執着性と縄張り性によって，散逸を防止して一定のメタ個体群が保持されていると考えられた．交尾後のメスの飛翔行動の解明が課題であるが，交尾地点を離れるほど産卵適地への遭遇確率が小さくなる事情を考えれば大移動はあまり多くはないであろう．

（２）ＤＮＡの一塩基置換の共有から推測されたメタ個体群の地理的分布

ギフチョウのミトコンドリア ND5 遺伝子の 782 塩基を 29 産地 137 個体について決定し, 一塩基置換の地理的分布を比較した．15 個の一塩基置換が存在し，一個体内では最大 3 個（0.4%）あった．うち

アミノ酸置換を伴うものは一個体のみで，その他はすべて縮退変異であった．

その分布は，京都付近を境に本州を二分する広域型一塩基置換が 2 個，中国地方と周伊勢湾地方に分布する一塩基置換が各 1 個，一産地内にのみ局在分布を示す局地型一塩基置換が 11 個であった．また，特定の一塩基置換個体が同一産地内に共存する場合(すなわち遺伝子多型の産地)が 9 産地存在した．うち一産地では，この置換塩基について『N』となる個体が含まれ，ヘテロプラズミーが疑われた．なおこの場合も，卵塊別解析をすると同一卵塊はすべて同一塩基型を示し，クローンごとの多型性は示さなかった．総覧すると，中国から近畿に至るサンヨウアオイ-ミヤコアオイ食系統は広域型一塩基置換とよく対応し，近畿から岐阜，愛知に至るヒメカンアオイ食系統には特異的な一塩基置換がよく対応していた．一方，局地型一塩基置換は，置換の発生と定着過程をみている場合もあるだろう．これがいかに出現し，定着し保持されていくかのメカニズムの解明は重要で，一個体中にヘテロプラズミーがどの程度包含されているかを含め問題は多いが，解明が進めば個体群構成からチョウの行動様式まで理解が深まることが期待される．

ギフチョウの生活を考えると，年ごとの発生消長が極めて著しい．個体数が激減した年には産地ごとの産卵個体の厳しい絞り込みがあり，あと clonal expansion が繰り返される強いビン首効果が想定される．現在の日本列島個体群はその総和であり，一塩基置換の共有の分布パターンはその複雑な蓄積の『断面』を示している．また，最終氷期の気象条件を考慮するなら，日本海沿いに北上しているコシノカンアオイ食個体群は一万年をさかのぼらない新しい群であることに注意すべきである．これらのことがらに思いを致しつつ自然の中を舞うギフチョウとのつきあいを深めていきたいものである．

2　三瓶山のウスイロヒョウモンモドキ：モニタリングの結果と保全対策の概要

星川和夫・中薗洋行（島根大学生物資源科学部）

全国的に絶滅が危惧されている日本産ウスイロヒョウモンモドキ *Melitaea protomedia*（環境省 RDB 絶滅危惧 I 類）は，かつては中国山地に広く分布していたが，2004 年現在で生存が確認される個体群は 7 箇所となってしまった．

本種は島根県では三瓶山のみに生息しているが，ここでも個体群の衰退は著しく，1970 年代に生息が確認されていた「男三瓶」，「室の内」，「西の原」，「東の原」では絶滅し，現在は「女三瓶」のみに単一の個体群が残存している状態である．

この事態を重視した島根県は，島根大学と共同して保全研究に着手し，従前からこの蝶の保護活動に熱心に取り組んできた地元の方々と協力して保全事業を推進している．ここでは，これまでの保全研究からモニタリングの結果を中心に幾つかの事項について紹介したい．

本種三瓶個体群については，2001 年から継続的に標識再捕法による成虫個体群の動態がモニタリングされている．成虫の累積羽化数推定値は，2001 年（約 460 個体；Petersen 法），2002 年（150♀152♂；以下 Jolly-Seber 法），2003 年（141♀180♂），2004 年（106♀125♂）であった．

2003 年には冷夏多雨の影響と考えられる♀平均寿命の短縮が観察されたので，緊急対策として実験室で飼育中の越冬幼虫約 500 個体を現地に放虫した．これまでの断片的な観察から，個体群の死亡過程は卵～若齢幼虫期の初期死亡と越冬期死亡が大きいと推定されるので前者を緩和する処理を行ったのである．しかし，2004 年の成虫モニタリングでは放虫の十分な効果が確認されなかったので，今年も越冬幼虫約 500 個体を追加放虫した．放虫数を制限しているのは少数個体に由来する飼育ストックを大量に放虫することによる個体群の急激な遺伝的変化を回避するためである（ただし，この処置は成虫期の移動分散を促進している可能性がある）．

このように唯一残存する遺伝子プールを確保しながら，メタ個体群再生のための生息地造成が進められている．造成にあたっては，その設計基礎となる生活史の解明が不可欠であるが，これまでに，本種成虫の吸蜜植物選択，♀成虫の産卵習性，野外における幼虫の寄主植物利用様式，寄主植物の環境選好性などが把握されてきた．

生息地造成は「東の原」，「男三瓶」，「北の原」などを計画しており，「東の原」については 2002 年から草刈などを行って準備を進めてきた．2003 年に予備的に移植した越冬幼虫は発生が確認されたものの，定着したか否かについては確証が得られていない．

3　再びモンゴル

吉田嘉男

1．モンゴルの日程

ｳﾗﾝﾊﾞｰﾄﾙ―――＞ﾃﾚﾙｼﾞ―――＞ﾊﾞﾔﾝﾁｬﾝﾄﾞﾏﾝ　――＞ﾊﾞﾔﾝ･ｺﾞﾋﾞ――＞ﾂｪﾝｹﾙｰｼﾞｸﾞｰﾙ
2004/6/21　6/22，23　6/23　6/24　6/25～6/27

ｳﾗﾝﾊﾞｰﾄﾙ―――＞ﾋﾞﾝﾃﾞﾙ―――＞ｳﾗﾝﾊﾞｰﾄﾙ＜＝＝＞ﾎﾞｸﾞﾄﾞ山―――＞ﾑﾙﾝ――＞ﾌﾌﾞｽｸﾞﾙ湖周辺
6/28　6/29～7/3　7/4　7/5　7/5～7/8

(ﾊﾄｶﾞﾙ)―――＞ｳﾗﾝﾊﾞｰﾄﾙ――＞ﾃﾚﾙｼﾞ――＞ﾎﾞｸﾞﾄﾞ山――＞ﾊﾞﾔﾝｺﾞﾋﾞ――＞ｶﾗｺﾙﾑ――＞ｳﾗﾝﾊﾞｰﾄﾙ
7/9　7/10　7/13　7/14　7/15

――＞ﾊﾞﾔﾝﾁｬﾝﾄﾞﾏﾝ――＞ﾃﾚﾙｼﾞ――＞ﾎﾞｸﾞﾄﾞ山――＞ｳﾗﾝﾊﾞｰﾄﾙ――＞岡山
7/16　7/16～19　7/20　7/20　7/21

2．採集

2004 年採集リスト（番号は‘03 年採集リストへ科毎に追加したもの）

	セセリチョウ科	**Hesperlldae**		**タテハチョウ科**	**Nymphalidae**
7	ｱﾙﾍﾟｳｽﾁｬﾏﾀﾞﾗｾｾﾘ	*Pyrgus alveus*	32	ﾛﾏﾉﾌﾋｮｳﾓﾝﾓﾄﾞｷ	*Melitaea romanovi ssp.*
8	ﾁｮｳｾﾝｷﾎﾞｼｾｾﾘ	*Heteropterus morpheus*	33	ﾏﾄｳﾙﾅﾋｮｳﾓﾝﾓﾄﾞｷ	*Euphydryas maturna staudingeri*
9	ｶﾗﾌﾄｾｾﾘ	*Thymelicus lineola lineola*	34	ﾗｯﾌﾟﾗﾝﾄﾞﾋｮｳﾓﾝﾓﾄﾞｷ	*Euphydryas iduna sajana*
			35	ｱﾑｰﾙﾋｮｳﾓﾝ	*Clossiana trionia elatus*
	アゲハチョウ科	**Papilionidae**	36	ﾋﾒﾋｮｳﾓﾝ	*Boloria aquilonaris aquilonaris*
5	ﾀｲﾘｸｳｽﾊﾞｼﾛﾁｮｳ	*Parnassius stubbendorfii*	37	ｱﾙﾀｲﾋﾒﾋｮｳﾓﾝ	*Boloria altaica ssp.*
			38	ﾐﾄﾞﾘﾋｮｳﾓﾝ	*Argynnis paphia neopaphia*
	シロチョウ科	**Pierdae**	39	ﾆｵﾍﾞｳﾗｷﾞﾝﾋｮｳﾓﾝ	*Fabriciana niobe ssp.*
11	ﾋﾒｼﾛﾁｮｳ	*Leptidea amurensis amurensis*	40	ﾎﾞﾗｯｸｽｳﾗｷﾞﾝﾋｮｳﾓﾝ	*Fabriciana vorax ssp.*
12	ﾓﾝｼﾛﾁｮｳ	*Pieris rapae ssp.*	41	ｳﾗｷﾞﾝﾋｮｳﾓﾝ	*Argynnis adippe*
13	ﾁｮｳｾﾝｼﾛﾁｮｳ	*Pontia edusa ssp.*	42	ｵｵｲﾁﾓﾝｼﾞ	*Limenitis populi ussuriensis*
14	ﾄｶﾞﾘﾁｮｳｾﾝｼﾛﾁｮｳ	*Pontia chioridice chioridice*	43	ﾋﾛｵﾋﾞｲﾁﾓﾝｼﾞ	*Limenitis sydyi*
15	ﾓﾝｷﾁｮｳ	*Colias erate ssp.*	44	ｺﾑﾗｻｷ	*Apatura metis*
			45	ｴﾙﾀﾃﾊ	*Nymphalis vaualbum vaualbum*
				ジャノメチョウ科	**Satyridae**
	シジミチョウ科	**Lycaenidae**	13	ﾄｩﾘｱﾋﾒﾋｶｹﾞ	*Coenonympha tullia subcaeca*
25	ﾆｾﾘﾝｺﾞｼｼﾞﾐ	*Fixsenia prunoides ssp.*	14	ﾋﾒﾋｶｹﾞ	*Coenonympha oedippus oedippus*
26	ﾘﾝｺﾞｼｼﾞﾐ	*Fixsenia　pruni*	15	ﾌﾘﾈｷﾞﾝｽｼﾞﾋｶｹﾞ	*Triphysa phryne*
27	ｳﾙﾐｶﾗｽｼｼﾞﾐ	*Fixsenia ulmi*	16	ﾊﾟｳﾛｳｽｷｰﾍﾞﾆ ﾋｶｹﾞ	*Erebia pawlowskii ssp.*
28	ﾒｽｸﾞﾛﾍﾞﾆｼｼﾞﾐ	*Palaeochrysophnus hippothoe*	17	ﾊﾙﾋﾗｰﾍﾞﾆﾋｶｹﾞ	*Erebia harhirarrensis*
29	ｸﾛｼｼﾞﾐ	*Niphanda fusuca burdensis*	18	ｹﾌｪｽﾃﾆﾍﾞﾆﾋｶｹﾞ	*Erebia kefersteini*
30	ﾋﾟｸﾗﾏﾀｲﾑｼｼﾞﾐ	*Pseudophilotes vicrama ssp.*	19	ｶﾘｱｽﾍﾞﾆﾋｶｹﾞ	*Erebia callias sibirica*
31	ﾋﾒｼｼﾞﾐ	*Plebeius argus*	20	ﾁｮｳｾﾝｼﾞｬﾉﾒ	*Aphantopus hyperantus sibiricus*
32	ﾙｷﾌｪﾙﾋﾒｼｼﾞﾐ	*Plebeius lucifer lucifer*	21	ｳｽｸﾞﾛﾐﾔﾏﾋｶｹﾞ	*Hyponephle iycaon ctamelas*
33	ﾃﾞｵﾄﾞﾛｽﾋﾒｼｼﾞﾐ	*Agrides diodorus diodorus*	22	ﾁﾋﾞﾀｶﾈﾋｶｹﾞ	*Oeneis sculda sculda*
34	ﾁｮｳｾﾝﾋﾒｼｼﾞﾐ	*Polyommatus erotides*	23	ﾅﾝﾅﾀｶﾈﾋｶｹﾞ	*Oeneis nanna nanna*
35	ｳｽﾙﾘｼｼﾞﾐ	*Polyommatus icarus fuchsia*	24	ｵｵﾀｶﾈﾋｶｹﾞ	*Oeneis magna magna*
36	ﾀﾞﾓﾝｼｼﾞﾐ	*Agrodiaetus damon mongolensis*	25	ｶﾗﾌﾄﾀｶﾈﾋｶｹﾞ	*Oeneis jutta jutta*
37	ｱｹﾞｽﾃｨｽﾊﾏﾍﾞｼｼﾞﾐ	*Aricia agestis ssp.*	26	ﾀｶﾈｼﾞｬﾉﾒ	*Hipparchia autonoe sibirica*
			27	ﾋｯﾎﾟﾘﾃｳﾗﾅﾐｼﾞｬﾉﾒ	*Pseudochazara hippolyte ssp.*
			28	ｼﾞｬﾉﾒﾁｮｳ	*Minois dryas septentrionalis*

（‘03 年採集リストは日本鱗翅学会中国支部会報第５号モンゴルの大草原に蝶を追う参照）
セセリチョウ科 3 種，アゲハチョウ科 1 種，シロチョウ科 5 種，シジミチョウ科 13 種，
タテハチョウ科 14 種，ジャノメチョウ科 16 種．‘03 年度 87 種に 52 種を追加

なぜ「再びモンゴル」か，昨年の経験から蝶の密度が高いこと，まだ十分調査されていなくて，まだ珍種が期待できること，食べ物が口に合うこと，空気が乾燥し汗をかいても乾きが早く爽やかであった．蝶のガイドのベックさんと通訳のソロモンさんの案内がよかった．

‘03 年に続き 2004 年は，若槻さん，も加わり中井さん，吉田の 3 人で計画を練り，ウランバートル周辺（テレルジ・バヤンチャンドマン・ボグド山），バヤンゴビ，ツェンケルジグール，ビンデル，フブスグル湖周辺（ハトガル）と広範囲での調査箇所を決めた．

砂漠地帯のブルド周辺，バヤンゴビではウルミカラスシジミがキャンプ周辺に点在する楡にいた．又フグンハーン国立公園では砂漠に棲むゴミムシダマシも見られた．

カノコソウで吸蜜するオオアカボシウスバシロチョウ（P. nomion）
2004 年 6 月 28 日撮影 ツェンケルジグールにて（吉田嘉男）

ツェンケルジグールに早く到着し，時間もあり草原の下見をした後キャンプに行く．3 日間滞在し初日は低温で蝶が少ない．2 日目は雨，3 日目は待望の晴れ，気温が低く蝶は少ないが昼近くになり気温が上がると何処からともなく飛びだす．谷筋は湿地かわずかに水が流れ，草も繁りシジミ類，小型のヒョウモン類が，少し離れた斜面は乾燥し丈の低い草原となりセセリ類やゴマシジミ，apollo，nomion，素早いモンキチョウ類が飛ぶ．ツェンケルジグールは天候不順で満足に採集できなかったがチョウセンジャノメ，トガリチョウセンシロチョウ等を採集した．

6 月 29 日，ウランバートルからダダルを目指し，一日中車で走り，薄暗くなってツーリストキャンプに到着．ベックさんから，ここはビンデルでダダルはまだ 140ｋｍ程先，燃料の関係でこれより先に進めない．ビンデル周辺で調査したいと相談され，ダダルを止めビンデルに変更した．結果から見るとビンデルのオノン川流域は良かった．川沿いは緑豊で，林や草原が続くオノン川流域の広大な盆地．又，チンギスハーンの生まれ育った所と言われ，ビンデル山麓には１３世紀頃の遺跡もある．ビンデルには 3 日間滞在し，当地でも低温と雨に悩まされ，少しの晴れ間に調査を行いキャンプ周辺のオノン川畔で牛糞を突き青や黒の綺麗な糞虫を採集．柳の上を飛ぶコムラサキ，弱々しく飛ぶセセリやイチモンジチョウの仲間，チョウセンジャノメ，ヒメヒカゲ，チョウセンヒメシジミなどが見られた．オノン川流域が一望できる丘に車で登る．頂上は風が強く乾燥に強いツメレンゲの仲間や苔，草が疎らに生えているだけ．谷沿いに移動，谷に水は無く，ニレからはウルミカラスシジミとリンゴシジミを，草原に降りると，チョウセンジャノメ，セセリやトンボも見られた．オノン川東や中洲ではオオイチモンジも見られた．

ビンデルでは五十嵐由里編纂“中央モンゴルの蝶”に載っていない 4 種を採集，帰国後中井さんが同定し，矢崎氏に確認して頂いた結果チョウセンキボシセセリ，リンゴシジミ，ヒロオビイチモンジ，コムラサキの 4 種はモンゴル初記録と確認された．

7 月 5 日，ウランバートルから空路でムルンまで行き，フブスグル湖に向かった．フブスグル湖周辺はは自然保護区で，日本で言えば上高地に相当し観光地として有名．ロシアとの国境近くに位置し水は，世界一の透明度を誇るバイカル湖に注ぐ．3 日間滞在し，低温と雨に悩まされながら，草原に行き辛抱強く天候の快復を待ち，一瞬の晴れ間に採集する日々だった．

又 2003 年にツェンケルジグールで 1 頭のみ採集したオオモンシロチョウはフブスグル湖東岸でモンシロチョウに混じり飛んでいた 5 頭を採集した．食草のアブラナ科植物は沢山見られた．

ベニヒカゲの類も多くパウロウスキーベニヒカゲ，トゥリアベニヒカゲ等が見られ，タイリクウスバシロチョウも当地で採集した．

ウランバートル周辺では旅行の最初と 25 日後の 2 回調査した結果，種類によって発生時期の違いが実感できた．顕著な例は nomion と apollo で 6 月 23 日は apollo が圧倒的に多かったが，7 月 15 日を過ぎると nomion が圧倒的に多かった．同じように当初は小型ヒョウモン類，エゾシロチョウや一部のシジミ類が多く，逆に 7 月中旬からは，ニキアスシジミやヒメシロチョウ，ミドリヒョウ

モン，ススケジャノメ等の大型のヒョウモン類やジャノメ類が目立つようになった．7/16 バヤンチャンドマンでは新鮮なエルタテハやヒオドシも見られた．テレルジでは，フタスジチョウがシモツケの仲間に産卵しているのを確認，中井さんは nomion がベンケイソウの花で吸蜜した後，近くの草むらに産卵したところを観察した．

30 日間の長期滞在で時節毎の蝶の移り変わりと，大きく東西と北に移動することで分布の地理的変化を期待した．天候に悩まされながらも長期に亘り広範囲に調査を行った結果，採集した蝶も多く，未展翅も一部有るが，'03 年の調査 87 種に約 52 種を追加することができた．また，甲虫類も可能な限り採集し，初めて糞虫も捜した．トンボ類は随所で見られた．

尚，モンゴル蝶採集旅行の様子（動画，Ｂ・Ｂ対応）は，岡山昆虫談話会ホームページ（http://insects-okayama.web.infoseek.co.jp/）にて掲載しています．

第６回日本鱗翅学会中国支部例会総会議事録

平成 16 年 11 月 7 日（日）
島根大学大学会館（島根県松江市）

《総会参加者》（敬称略・アイウエオ順）

（中国支部会員）
伊藤國彦, 伊藤寿, 筆谷憲一, 金屋敷章裕, 鎌田博, 神垣健司, 後藤和夫, 白水房江, 田村昭夫, 中井衛, 難波通孝, 布目和子, 平野和比古, 本田計一, 松田裕一, 三島昭一, 三宅誠治, 吉田嘉男, 若槻匡志, 渡辺一雄

（事務局）
中薗洋行, 林成多, 星川和夫, 淀江賢一郎

本田支部長の進行により行われた．

１）会計報告

○　つぎの 2004 年会計について，2004 年 11 月 7 日時点での会計報告が行われ，了承された．

収入の部　　2004 年 1 月 1 日～11 月 7 日

収入内訳	金額	備考
前年度繰越金	125, 355	
2004 年度支部交付金	17, 100	
2004 年度支部活動助成金	36, 150	
寄付金（第５回支部例会余剰金）	3, 452	
預金利子	5	
計	182, 062	

支出の部

支出内訳	金額	備考
第５回支部例会（H15. 11）補填費	33, 204	
支部会報第５号印刷費	19, 687	
支部会報第５号郵送料	11, 920	140 円×81 部, 580 円×1 部
雑費	12, 000	
計	76, 811	

来年度繰越金

182,062 円－76,811 円＝　105,251 円

○　補足説明　雑費は，白水先生・緒方先生への香典と封筒等

２）役員選出

○　支部長について，

前回（第５回）支部例会で，２００４年に限り本田計一氏が継続し，次期支部長として後藤和夫氏を選出が承認されていることから，後藤氏の支部長就任を確認した．任期は，評議員の残任期とあわせた２００５年・２００６年の２年間．

○　各県幹事について

各県幹事が承認された．

鳥取県　田村昭夫氏，島根県　淀江賢一郎氏，

岡山県　吉田嘉男氏，広島県　神垣健司氏，

山口県（事務局幹事）調整中，会計　調整中

（後藤支部長）山口県の幹事については調整中であるが，事務局幹事には川元裕氏を鱗翅学会に入ってもらい，会計には伊藤靖子氏に，やっていただくよう考えている．

３）その他

○　助成金の申請

今回も第７回中国支部例会開催，支部会報第６号発行のための助成を日本鱗翅学会本部へ申請した．ただし，鱗翅学会の理事会では，支部会報の存在自体を知らないとの指摘もあったと聞いている．確かに担当の本部の吉本氏には届けているはずなのだが・・・．また支部例会等の連絡には「やどりが」を活用するよう指摘があった．

○　後藤支部長あいさつ

２００５年には第７回中国支部例会を開催する予定となっている．情報については適宜「やどりが」へ掲載していきたいと考えている．

支部会報についても，鱗翅学会理事への配布を行っていきたい．

○　昆虫ＤＮＡ研究会について（渡辺一雄）

２００５年1月２２・２３日に広島で開催される昆虫ＤＮＡ研究会について情報提供された．

受付の状況

総会を進行した本田氏

ギフチョウの話をする渡辺氏

ウスイロヒョウモンモドキについて講演する星川氏

非常に綺麗なスライドでモンゴルを紹介する吉田氏

☆ 懇親会 ★

支部例会後，島根大学近くの「花菱」において，高橋会長の参加のもと懇親会が行われた.

吉田さんの講演や，モンゴル在住（笑）の木村さんの誘惑もあり，来年はモンゴルでの採集ラッシュの更なる加速が予想される楽しい会でした.

《懇親会参加者》（敬称略・アイウエオ順）

（中国支部会員）

伊藤國彦，筆谷憲一，金屋敷章裕，鎌田博，後藤和夫，白水房江，田村昭夫，中井衛，中薗洋行，難波通孝，布目和子，林成多，平野和比古，星川和夫，本田計一，松田裕一，三島昭一，三宅誠治，吉田嘉男，淀江賢一郎，米山沙希，若槻匡志，渡辺一雄

（中国支部会員以外）

木村春夫，倉地正，高橋真弓，谷角素彦米山沙希

お知らせとお願い

事務局

1　支部助成金

2004年度分として本部から支部交付金17,100円と支部助成金36,150円，合わせて53,250円が交付されました.

＊＊

2　電子メールアドレスを教えてください

末尾に2005年6月現在の支部会員名簿を載せておりますが，電話番号や電子メールアドレスが未掲載の方がたくさんおられます.

会員相互の連絡を容易にするためにも，また，先々，各種のご案内や会誌などの電子配信が可能になりますと、情報の配信が速く、安くなり、経費の節減にも大きく貢献しますので，できるだけ電子メール情報は掲載したいと考えておりますので，お持ちの方は次回例会案内の返信の際にでも差し支えのない範囲でお知らせ戴きますようお願い致します.

＊＊

3　第７回支部例会のお知らせ（第１報）

今年の支部例会の日程は下記の予定で準備を進めています.

○　日時：2005 年 11 月 26 日（土）１６時～１８時
○　場所：山口市湯田温泉　翠山荘（懇親会もここで行います．）
○　参加費：会員 500 円，非会員 1,000 円
○　連絡先：〒754-0014　山口県吉敷郡小郡町高砂町 8-32-406　川元裕（事務局幹事）
TEL　083-972-8372　　e-mail k-yutaka@wonder.ocn.ne.jp
○　お願い
①　発表等を計画されている方は，９月末日までに事務局幹事まで連絡してください．
②　会場で準備できる機材は次のとおりです．これ以外の機材が必要な場合は，当日ご持参いただくか，事前に事務局あてに宅急便等で送るなどして確保してください．
機材：オーバーヘッドカメラ（写真・ビデオ可），スクリーン，マイク
③　会場である翠山荘は地方職員共済組合の宿泊施設ですが，非組合員でも宿泊できます（組合員：6～7 千円，非組合員：7～8 千円程度）．宿泊の予約は，３ヶ月前から受け付けていますので，各自で申し込んでください．
翠山荘　　Tel：083-922-3838　　Fax：083-922-4848
http://www.suizanso.com/　　E-mail：suizanso@orion.ocn.ne.jp

＊＊

4　日本鱗翅学会第 52 回大会のお知らせ

すでに「やどりが」紙上で２回にわたって案内されておりますが，11 月 12～13 日に，日本大学生物資源科学部（神奈川県藤沢市亀井野）を会場にして第 52 回大会が開催されます．「のぞみ」でほんの（？）4～5 時間程度ですので，中国支部のみなさまもぜひともご参加ください．

＊＊

5　支部会報の原稿を募集しています

Ｈ１８年６月に発行予定の支部会報第７号の原稿および表紙の写真を募集しています．
会員の皆様の近況についてお知らせください．

＊＊

6　寄贈図書等の紹介及び支部保管リスト

ホシザキグリーン財団から新たに下記図書の寄贈を受けましたのでご紹介します．
ホシザキグリーン財団，「白水文庫その１」，２００４

なお，これまでに寄贈を受けた又は支部で購入した図書として以下のものを保管しています．閲覧を希望される方は事務局までご連絡下さい．

№.	書籍名	発行年月	著者等	入手先	区分
1	レッドデータブックやまぐち	2002 年 3 月	山口県	山口むしの会	寄贈
2	山口のむし　№.1	2002 年 5 月	山口むしの会	同左	寄贈
3	岡山県蝶類データ集	2002 年 11 月	三宅誠治		購入
4	山口のむし　№.2	2003 年 4 月	山口むしの会	同左	寄贈
5	続・日本産蝶類文献目録	2003 年 6 月	白水　隆　編著		購入
6	改訂・レッドデータブックひろしま	2004 年 3 月	広島県	中村慎吾氏	寄贈
7	山口のむし　№.3	2004 年 4 月	山口むしの会	同左	寄贈

8	恩原高原のウスイロヒョウモンモドキ	2004年11月	委員長 難波　通孝	特別委員会	寄贈
9	山口のむし　№4	2005年4月	山口むしの会	同左	寄贈
10	白水文庫その１	2004年　月	ホシザキグリーン財団	同左	寄贈
11	ワンダフル・バタフライ　ー不思議にみちたその世界	2005年5月	本田計一・村上忠幸（著）	本田計一氏	寄贈

2005年度中国支部役員連絡先

支部長　**後藤　和夫**
〒759-0207　山口県宇部市厚南7区平和町
TEL　0836-41-1164；FAX　0836-41-1177
E-mail　kazumi-kgh46@h6.dion.ne.jp

事務局幹事　**川元　裕**
〒754-0014　山口県吉敷郡小郡町高砂町8-32-406号
TEL/ FAX　083-972-8372
E-mail　k-yutaka@wonder.ocn.ne.jp

会　計　**伊藤　靖子**
〒758-0011　山口県萩市椿東554-12
TEL/ FAX　0838-26-7155
E-mail　RXW04042@nifty.ne.jp

広島県幹事　**神垣　健司**
〒737-0113　広島県呉市広横路4-4-32
℡　0823-74-2680　mail：quercus77@mail.goo.ne.jp

岡山県幹事　**吉田　嘉男**
〒706-0304　岡山県玉野市番田2810-1
℡　0863-66-5334　mail：jh4lix@po.harenet.ne.jp

島根県幹事　**淀江　賢一郎**
島根県松江市比津が丘2-1-7
℡　0852-26-0186　mail：yodoe@mable.ne.jp

鳥取県幹事　**田村　昭夫**
鳥取県倉吉市宮川町2-74
℡　0858-22-7707　mail：tanbaya@lime.ocn.ne.jp

日本鱗翅学会中国支部名簿

No.	氏名	会員番号	郵便番号	住所	電話番号	e-mail	興味の対象
1	田阪　富士郎	27	737-0124	呉市広中新開 1-2-27　田阪眼科医院	0823-73-0988		夜蛾類だったが近頃はやっていない，鳥切手に凝っている
2	間野　幹男	28	701-1463	岡山市足守 1806	086-295-0308		温暖化に伴う北進昆虫（ﾅｶﾞｻｷｱｹﾞﾊ，ｲｼｶﾞｷﾁｮｳ，ｺﾉﾏﾁｮｳなど）
3	中村　慎吾	67	727-0013	庄原市西本町 1-7-7	08247-2-3234		地域の蝶・蛾類相
4	矢野　宏二	161	753-0061	山口市朝倉町 11-23	083-925-8662		
5	布目　和子	175	752-0967	下関市長府宮ノ内町 6-11			
6	渡辺　一雄	458	739-8521	東広島市鏡山 1-7-1　広島大学総合科学部	0824-24-6531	kwat@hiroshima-u.ac.jp	
7	矢野　重明	682	718-0011	新見市新見 892	0867-72-4273		
8	住田　　紘	712	750-0019	下関市丸山町 2-2-8			
9	澤野　邦彦	1142	739-2115	東広島市高屋高美が丘 8-20-8	0824-34-8966	sawano@rehab-hiroshima.gr.jp	蝶（特に分布調査）
10	本田　計一	1303	739-8521	東広島市鏡山 1-7-1　広島大学　総合科学部自然環境研究講座	0824-24-6501	honce@hiroshima-u.ac.jp	アゲハとマダラとタテハ
11	酒井　　彰	1562	733-0035	広島市西区南観音 8-13-31　アルカーサル谷本 501 号			
12	福田　竹美	1711	743-0063	光市上島田 5-10-8			
13	小松原　望	1754	712-8061	倉敷市神田 1-16-41			
14	岡村　一郎	2239	690-0878	松江市砂子町 205-13	0852-21-6072		蝶と蛾
15	岡野　貴司	2294	710-1312	吉備郡真備町辻田 847-5	0866-98-7247	takashiokano@mx31.tiki.ne.jp	岡山県の蝶の分布
16	岡　耿一郎	2518	751-0877	下関市秋根東町 2-8	0832-56-2726		国内の蝶の分布
17	難波　通孝	2531	709-0631	岡山市東平島 1595-87	086-297-4122		蝶の生態と生息環境，その保全
18	淀江　賢一郎	2553	690-0862	松江市比津が丘 2-1-7	0852-26-0186	hgfyodoe@green-f.or.jp	

19	田中　正文	2619	754-0893	山口市大字秋穂二島 6215	083-987-2610		蝶，既に知られている生態の自らによる観察理解，未知生態の探索など
20	木村　明士	2751	709-4312	勝田郡勝央町黒土 101-1	0868-38-5200		蝶，大型甲虫
21	田村　昭夫	2924	682-0881	倉吉市宮川町 2-74	0858-22-7707	tanbaya@lime.ocn.ne.jp	蝶，蛾
22	松田　裕一	2925	682-0921	倉吉市西福守町 946			
23	鳥居　　守	2949	754-0002	吉敷郡小郡町下郷尾崎 37-44			
24	梅原　　努	3323	739-1201	安芸高田市向原町坂 239	0826-46-2304		蝶
25	宇野　弘之	3476	710-0007	倉敷市浅原 836	086-422-6978		
26	後藤　和夫	3513	759-0207	宇部市厚南 7 区平和町	0836-41-1164	kazumi-kgh46@h6.dion.ne.jp	
27	伊藤　國彦	3544	719-1112	総社市窪木 111　岡山県立大学短大部	08669-4-2016		
28	三熊　良一	3563	704-8116	岡山市西大寺中 2-22-25			
29	英　　裕人	3695	680-0804	鳥取市田島 688-2		tashima@orange.ocn.ne.jp	フタオ会
30	伊藤　　寿	3741	731-0113	広島市安佐南区西原 1-11-7			
31	青木　暁太郎	3770	738-0514	佐伯郡湯来町杉並台 17-12			
32	神垣　健司	3783	737-0113	呉市広横路 4-4-32	0823-74-2680		ｱｶｼｼﾞﾐ属，ｼﾞｬﾉﾒﾁｮｳ科
33	武次　房江	3884	751-0806	下関市一の宮町 1-12-6	0832-56-3443		蝶
34	高田　詔民	3907	720-0832	福山市水呑町 456-2　（株）日本総合科学			
35	三宅　誠治	3959	706-0131	玉野市東紅陽台 2-19-192	0863-71-1965	miya@tamano.or.jp	蝶の生態，文献
36	坂本　　充	3987	732-0032	広島市東区上温品 3-24-16		horntail@hicat.ne.jp	
37	大木　孝行	4022	744-0042	下松市切山 333-4			
38	永田　浩史	4067	708-0801	津山市上横野 70-7	0868-23-0192		中南米のセセリチョウの分類
39	大屋　厚夫	4104	701-0135	岡山市東花尻 229-1			蝶類学会会長

40	吉田　嘉男	4110	706-0304	玉野市番田 2810-1		jh41ix@po.harenet.ne.jp	
41	那須　　敏	4179	704-8173	岡山市可知 2-6-5-403			
42	俵　　潔	4220	745-0882	周南市東一ノ井出 739-55			
43	吉川　直樹	4232	730-0825	広島市中区光南 3-8-10	090-7122-2710		
44	広瀬　正明	4270	710-0031	倉敷市有城 498-5			
45	筆谷　憲一	4291	690-0015	松江市上乃木 7-1-9	0852-27-5697		蝶の分布
46	西谷　正九郎	4294	699-4715	邑智郡邑智町石原 269			
47	河邊　誠一郎	4317	710-0061	倉敷市浜ノ茶屋 2-3-33	086-440-1160		岡山の蝶，保護
48	相良　伊知郎	4355	732-0062	広島市東区牛田早稲田 2-19-45-706			
49	星川　和夫	4421	690-8504	松江市西川津町 1060　島根大学生物資源科学部		hosikawa@life.shimane-u.ac.jp	
50	伊藤　靖子	4448	758-0011	萩市大字椿東 554-12	0838-26-7155		蛾類
51	難波　圭吾	4471	719-1143	総社市上原 349-2			
52	中坪　孝之	4500	739-8521	東広島市鏡山 1-7-1　広島大学総合科学部			
53	冨山　哲夫	4518	700-0822	岡山市表町 1 丁目 6-36	086-231-3429		
54	沖本　暢敬	4567	742-2102	大島郡大島町大字東三蒲 742-1			
55	池田　　匡	4592	683-0017	米子市宗像 451-13			
56	清水池　有治	4621	739-1751	広島市安佐北区深川 3-9-7			
57	難波　正幸	4631	739-0006	東広島市西条上市町 6-23　エレアーバンビル１階　なんば歯科	0824-20-0200		蝶
58	山内　健生	4649	739-8528	東広島市鏡山 1-4-4　　瀬戸内圏　フィールド科学教育研究センター			
59	遠藤　克彦	4658	753-0077	山口市熊野町 3-6-102			
60	三時　輝久	4659	747-0011	防府市岸津 2-14-20			

61	山中　　明	4660	753-8512	山口市大字吉田 1677-1　山口大学理学部自然情報科学科	083-933-5720	yamanaka@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp	
62	鎌田　　博	4673	736-0085	広島市安芸区矢野西 4-28-6	082-888-5143		ギフチョウの生活史
63	中井　　衛	4700	755-0151	宇部市西岐波大沢西後	0836-51-2555		蝶の観察
64	上田　　丞	4718	755-0062	宇部市鵜の島町 7-28　ムネチカビル 102			
65	ホシザキグリーン財団	4768	691-0076	平田市園町沖の島 1659-5　宍道湖自然館内			
66	金屋敷　章裕	4844	730-0001	広島市中区白島北町 18-3-1307			
67	三島　昭一	4853	691-0013	平田市美談町 428-1		midami@izumo-net.ne.jp	
68	深貝　恭悦	4857	690-0834	松江市朝酌町 652	0852-39-0048		蝶
69	鳥居　俊孝	4860	685-8512	隠岐郡西郷町有木尼寺原 1　隠岐高等学校	08512-2-6414		隠岐の蝶類全般について広く浅く，ルーミスにこだわり
70	中村　具見	4950	719-1134	総社市真壁 1048			
71	亀山　　剛	4975	738-0001	廿日市市佐方 4-1-11　MY ハウス 308			
72	若槻　匡志	4995	704-8183	岡山市西大寺松崎 248-69			
73	谷光　重信	5036	733-0852	広島市西区鈴が峰町 41-1-801			
74	平野　和比古	5077	739-0265	東広島市志和町冠 248-7			
75	新谷　隆之	5080	729-3305	世羅郡世羅町別迫 1526			
76	茶珍　　護	5081	739-0025	東広島市西条中央 7-19-30-410			
77	藤川　　匠	5111	751-0849	下関市綾羅木本町 7-11-24			
78	中薗　洋行	5136	690-0825	松江市学園 2-4-11　ベルトピア 5-203			
79	二村　正之	5143	699-0701	簸川郡大社町杵築東 463-2			
80	川元　　裕	5153	754-0014	吉敷郡小郡町高砂町 8-32-406	083-972-8372	k-yutaka@wonder.ocn.ne.jp	
81	米山　沙希	5163	690-0823	松江市西川津町 869-5　コスモハイツ 101 号			

日本鱗翅学会中国支部規約　　(2001年12月2日制定)

第１章　総　則

（名称）
第１条　本支部は日本鱗翅学会中国支部と称する．

（目的）
第２条　本支部は支部会員相互の交流を図り，鱗翅目昆虫についての理解を広めることを目的とする．

（事務局）
第３条　本支部に事務局を置き，事務局を本支部の所在地とする．

（事業）
第４条　本支部はその目的を達成するために次の事業を行う．
（１）年１回例会（総会を含む）を開催する．
（２）年１回日本鱗翅学会中国支部会報を発行する．
（３）その他，適当な行事を行う．

第２章　支　部　会　員

（組織）
第５条　本支部は中国地区（広島・岡山・鳥取・島根・山口の各県）に在住する日本鱗翅学会会員をもって組織する．

（義務）
第６条　本支部の会員は住所（連絡先），氏名などに変更のあるときは遅滞無く事務局に通知するものとする．

第３章　役　員

（種類）
第７条　本支部に次の役員を置く．事務局は支部長，事務局幹事，会計で構成する．
（１）支部長　　１名
（２）事務局幹事　　１名
（３）幹事　　４名
（４）会計　　１名

（選出）
第８条　支部長は日本鱗翅学会中国地区選出の評議員の中から互選し，総会において承認を得るものとする．
幹事（事務局幹事を含む）は第５条の各県の会員の中から推薦され（１名ずつ選出．自薦を含む），総会において承認を得たものとする．選出方法は各県の裁量による．
事務局幹事は原則として支部長在住の県から選出された幹事がこれを務める．
会計は支部長が会員の中から推薦し，総会において承認を得たものとする．

（職務）
第９条　支部長は本支部を代表し，支部会務を統括する．支部長に事故があった場合，支部会員の資格を失った場合は，当該年度内の残任期間に限り他の評議員が支部長の職務を代行する．この場合総会の承認を必要としない．
事務局幹事は支部長を補佐し，支部運営上必要な業務を行う．
幹事（事務局幹事を含む）は例会の開催，会報の発行，その他支部運営に必要な業務の遂行に協力する．
会計は支部資産を掌握し，出納事務を行う．

（任期）
第１０条　支部長の任期は原則３年とし，再任を認めない．
事務局幹事の任期は原則３年とし，再任を認めない．
幹事の任期は１年とし，再任を妨げない．
会計の任期は原則３年とし，再任を認めない．

第４章　例会，総会および会報

（例会の内容）
第１１条　例会は原則として支部会員による研究発表，調査・採集報告などで主に構成され，必ず総会を含むものとする．

（開催地）
第１２条　例会は各会計年度内に少なくとも一回おこなうものとする．
例会は広島県，岡山県，鳥取県，島根県，山口県の順で開催するものとする．

（例会の運営）
第１３条　例会は前条開催地の幹事が主催する．

（総会の運営）
第１４条　総会は支部会員をもって構成する．
総会の運営は事務局が担当し，議長は支部長が務める．ただし，他の評議員または幹事による代行も可とする．
総会の議決は出席した支部会員の過半数をもって決し，可否同数のときは議長の決するところによる．

（会報）
第１５条　会報は例会を主催した幹事が草稿を作成，編集する．
会報は事務局が発行し，例会開催翌年の６月末までに支部会員全員に配布する．

第５章　会　計

（経費）
第１６条　本支部の経費は次に掲げるものをもってこれに当てる．
（１）支部連絡費（本部より交付）　200 円/年/会員
（２）支部助成金（本部に申請）
（３）寄付金，その他

（資産の管理）
第１７条　本支部の資産は事務局が管理する．

（決算）
第１８条　本支部の会計状態及び収支決算はこれを総会で報告し，承認を得なければならない．

（会計年度）
第１９条　本支部の会計年度は毎年１月１日に始まり，同年１２月３１日に終わる．

第６章　補　則

（会則の変更）
第２０条　本支部の会則を変更する場合は，総会の議決を経なければならない．

（委任規定）
第２１条　この規約に定めるもののほか，本支部の運営に関して必要な事項が発生した場合は，評議員及び幹事との協議に基づき，事務局がこれを定めることができる．ただし，その事項は次回総会において承認を得なければならない．

附　則
この規約は，平成１４年　１月　１日から実施する．

（支部例会について：第４回支部総会申合せ事項）

例会参加費

○　2003 年から，学会員 500 円，非学会員 1,000 円とする。

○　参加費を支払って参加した非学会員には，例会の記事が記載された翌年発行の支部会報を一部送付する。

○　総会開催中は会員外の者の傍聴は認めるが，発言権，議決権は認めない。

＜編集後記＞

今年もはや半ば過ぎようとしていますが、昆虫を相手とする私たちには最も楽しい時期に、また規約どおりに支部会報第６号をお届けすることができて、編集者としてとりあえずほっとしています。

３月に引継ぎを受けて後、今日まで少しずつ作業を進めてきました。編集作業は、大学時代に一度だけ経験して以来10数年ぶりの今年､自分の所属する同好会の連絡誌と本会報の２本を手がけました。家庭や仕事と並行して限られた時間での編集作業で、日頃各地で同好会報などを編集されている方々のご苦労を改めて実感いたしました。

編集に当たり、入会してから半年経つかどうかの身分で、今回は支部会報のあり方にまで踏み込んむことはできず、前例踏襲の内容となりましたが、表現などを少し私なりに柔らかくしたり、自体を変えたりしてみました。結果小手先の改善に終わったようにも思えますし、それどころか逆に読みにくくなったなどのご批判があるかもしれませんが、評価は甘んじてお受けして次回の編集に活かしたいと思いますので、ご意見など聞かせてください。　(Yu)

日本鱗翅学会中国支部会報
第６号

発行日：2005年（平成17年）6月13日
編集者：川元　　裕
発行人：後藤　和夫
発行者：日本鱗翅学会中国支部